

# 学校だより 磯松 6月号

生活二題： 明るく元気なあいさつをしよう!! 時間を守り、機敏な行動をしよう!!

## 自然体験で感動を

校長 柏木博之

5月21日の金環日食。6月6日の金星太陽面通過。二ヶ月連続で天体ショーがありました。

登校を早くして、7時から1時間目とした三島小中学校の金環日食観測会では、残念ながら太陽は厚い雲に隠れて、顔を出してくれませんでした。校庭に集まった島民の皆様と一しょに大きな感動を味わいたかったです。しかし、8時半ごろ空が明るくなりました。雲が薄くなり、太陽が顔を出してくれました。太陽の左下が欠けた部分日食を子供たち全員観ることができました。その様子は、硫黄島に取材に来ていたNHKが、夜のニュースでも放映してくれました。「メロンパンの下のほうをだれかが食べたみたいな感じ」と中学生がうまい表現をしてくれました。



長雨の中でも、あじさいを見るとほっとします。

知り合いの理科教師からこんなことを聞きました。金環日食を観測できるところに住みながら、観測しなかった子供がいたそうです。担任の先生が「何していた？」と聞いたら、「マンガを読んでいた」と答えた小学生がいます。今住んでいるところで、皆既日食や金環日食が見られるのは一生に一度あるかないかです。その子の責任というより、その子が通う学校の教師と親の責任です。自然体験は子供の心を大きく成長させる絶好の機会です。

子育てについて多面的に研究している明星大学の高橋史朗教授が、夏休み東京の子供たちを新潟に連れて行きました。夜、満天の星空をみんなで見ていたら、ある子が「ジンマシンみたい」といったそうです。この話を聞いて悲しくなるとともに、大人のはたらきかけの大切さをあらためて認識しました。人間の脳には（日本人と西洋人との間には多少差がありますが）、自然現象について敏感にはたらく部位があります。そこをはたらかせるには子供が小さいときに、例えばきれいな夕日を見て、親が「きれいだね」と言ってあげて、その部位にスイッチを入れてあげる必要があります。それにより、子供の感性が育っていきます。自然に対する畏敬の念を土台にして、自然を維持させるための人間の関わり方の大切さを知ってほしいです。

五十年前に比べると子供の自然体験は非常に少なくなってきました。でも、硫黄島ではまだまだいっぱい自然に接することができます。あと一ヶ月足らずで夏休みです。子供たちには、家から出て、外でいっぱい遊んで自然と接してほしいです。学校でも、家庭でも自然と触れ合う教育を、機会を逃がさずこれからも進めていきたいと思います。

## 高齢者給食試食会・授業参観・スポーツ大会

22日（金）に高齢者学級の方々の給食試食会・授業参観・スポーツ大会を実施しました。給食試食会では、普段子供たちが学校で食べている給食を高齢者の方々にも試食していただきました。船便の関係で当初お知らせしていたメニューと変わったのですが、それでも「たくさん的人数で食べるとおいしい。」等と喜んでいただきました。授業参観では、保護者と高齢者の方々に参観していただき、子供達はふだん以上に張り切って学習していました。高齢者スポーツ大会は、子ども達と高齢者の方がチームを組み、楽しくプレーすることができました。好天にも恵まれ、大変盛り上がりました。高齢者の方々和孩子達にとって、充実したふれ合い活動となりました。



## 金環日食・金星の太陽面通過

思い通りに太陽が姿を見せてくれず残念。

5月21日（月）に「金環日食」、6月6日（水）に「金星の太陽面通過」と滅多に見られない天体ショーがこの一月の間に2回もあり、宇宙への興味を高めることができました。金環日食については、天気に恵まれず、せっかくのリングを見ることはできませんでしたが、後半では天気が少し回復し、部分日食を見ることはできました。太陽の欠ける様子が見えたときには、歓声が沸き起こりました。金星の太陽面通過の日は、天気が良く、金星の通過する様子を観察でき、何年分も地球や宇宙を身近に感じることでした。



太陽の上に金星を見つけました。

## 子供会“たけのこ採り”

5月27日（日）に毎年恒例の「子供会たけのこ採り」がありました。当日は天気にも恵まれ、子供たちは委員会毎に分かれて、元気に活動していました。今年は例年ほどの収量はなかったようですが、それでも子供たちは採ってきたたけのこが、たけのこ工場に届くと熱心に皮むきをしていました。採れたたけのこは学校給食や市場用として出荷され、子供会の大切な活動資金となります。子供たちは、いい汗を流してとても気持ちよさそうでした。また、今年赴任された先生方も初めての地域の特徴ある活動に参加し、地域行事にさらに興味をもたれたようです。



## 美術・図工でジャンベの“セセ”づくり

中学校の美術、小学校の図工の学習の一環としてジャンベの“セセ”作りに取り組んでいます。ジャンベの“セセ”は、金属製でジャンベのたたく部分の周りにつけられているものです。本来は、平らな金属ですが、それを芸術的に自分なりのデザインで装飾し、楽しく演奏できるようにしてみよう、というわけです。子供たちは自分なりのデザインを金属製の板にペンなどでかき、それを金切りばさみで切ったり、金槌などの道具でたたいたりして装飾をしています。完成にはまだもう少しかかりそうですが、ジャンベ留学生にも手伝ってもらいながら、がんばっています。自分なりにデザインした“セセ”でジャンベを演奏する子供たちの姿が見られる日を楽しみにして下さい。



## お知らせ



県は、ハンセン病問題に対する正しい知識の普及啓発を図るため、6月17日（日）～23日（土）を「ハンセン病を正しく理解する週間」として設定しています。御承知の通り、これまでハンセン病は怖い病気であるという誤った考えから、様々な偏見・差別や人権侵害を引き起こしてきました。学校では、道徳や学級活動などの時間の中でこの問題に触れながら、偏見や差別をなくすことについて指導しています。

これを機会に、ハンセン病問題により今もなお根強い偏見や差別に苦しむ方々がいらっしやることなど正しく理解し、偏見・差別の解消に努める必要があると考えます。